

くらら&ひさくんの

※今回は、ひさくんの担当です

見_て歩_き



<カナダ、モントリオール大学のヤコブMラブキン教授と浪江町仮設住宅を訪ねて！>

突然の訪問にも関わらず、「是非、聞いて」と次々本音の話を聞かせてくださった。

「ほとんど自給自足の生活だった。でも、ここでは大根一本でも買わなくてはならず、何にでもお金がかかる。今の補償だけでは、満足に生活できない。(原発事故前は)天国だったのになあ。」

その上、仮設には老夫婦のみ。若夫婦は仕事や子どもの学校の都合で別居、家族バラバラの生活に。1カ月10万円の補償金に彼らの幸せがあるはずもないのだ。

「今後あなたは、どうしたいのか」という教授の質問に、「私たちはもう浪江町には戻れないと思ってるよ。中にはそうじゃない人もいるからあまり言わないけど、除染、除染って、そこに金かけんなら、私達が安心して住める家を造って欲しい」「家の周りを除染したって、ま

た山から放射性物質が降りてくる。そういう所に生活するのに必要な店や病院やガソリンスタンドなんかできると思いますか？」

人はひとりでは生きていけない。家族がいて、友人、知人がいて、地域がある。そこにコミュニティが生まれて始めて、人間らしい暮らしが成り立つはずだ。そしてまた商店街も成りたちライフラインも回るのだろう。当たり前の暮らしが奪われてることに心の底から怒りをおぼえ、このことを多くの人に伝えようと思っていると、私の背中に聞こえてきたのは、「たくさん話を聞いてくれてありがとう。今日は本当にいい話を聞いてくれてありがとう。今日は本当にいい話を聞いてくれてありがとう。今日は本当にいい話を聞いてくれてありがとう。」という感謝の言葉だった。



<足湯でからだを温める>

自分のからだの不調を早いうちから感じとり、自然治癒力を促す方法、その一つが足湯です！

バケツに40度くらいのはじめは少しぬるめのお湯を入れ、両足をふくらはぎ(くるぶしより上)まで入れる(10分~15分がめやす)。お湯が冷めたら熱いお湯をさす。ひたいに汗をかいたら、足を出す。乾いたタオルで指の間まで良くふいて、くつしたをはく。からだの芯からポカポカしてきて、ぐっすり眠ることができると良いでしょう。



カラダ食

ココろのぐるり

『自然治癒力を高める快療法』

(ちくま文庫・橋本俊彦著)より

編集後記

「3・11」以降、福島でいちばん急ぎたいことのひとつとしてつくった診療所！ここを多くの人に知って活用してもらうための「ここから通信」！

いのちをたいせつする新しい時代を拓く発信地としての此所から、という意味。また、人まかせでなく、自分で考え、動いて生き抜くという、個々からという意味をこめて名づけました。

(椎名)

お知らせ

6月から福島市民検診がはじまります



ぜひご利用下さい

個別検診は
ふくしま共同診療所でも
実施しています

以下の検診もできます
肝炎ウイルス検査/大腸検診(一次)/胸部検診(一次)/前立腺がん検診(一次)/骨粗しょう症検診

ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信

通信

通信

創刊号 季刊-春号-

診療時間：9：30-12：30/15：00-18：00

	月	火	水	木	金	土
午前	-	●	-	●	●	●
午後	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科・放射線科

〒960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

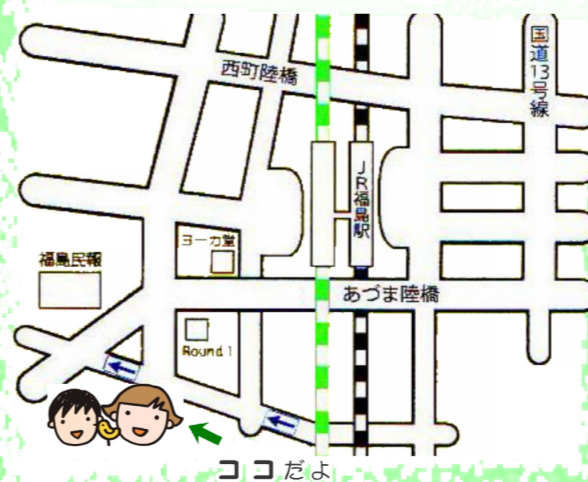
昨年、12月1日に開院しました。「みなさんの診療所」です。お気軽にお越しください。



~ふくしま共同診療所のめざすもの~

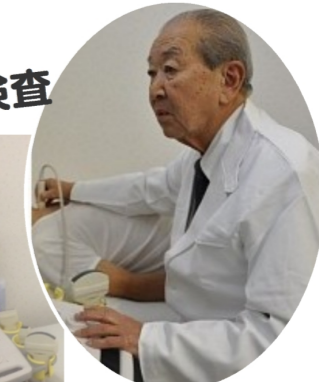
この診療所は、福島第一原発事故に対し、「福島の子どもの命と健康を守ろう」と呼びかけられた基金によって建設されました。

- 地域で求められる、あらゆる医療要求を全力でにないます
- 人々が生き、生活するために、医療・福祉を、共同の場としてつくりあげます
- 被災、被災の現実と訴えから学び、応えとともに避難、保養をすすめ、健康増進をちかとしてゆきます
- 地域の人々と連携し、健康と人権を守り、安心・信頼の医療をすすめます
- 全職員によるチーム医療と、民主的な運営をすすめます



※福島駅西口徒歩7分 福島民報社さん南側
※駐車場完備

甲状腺エコー検査



丁寧な診察



絵本250冊 手作り人形40体あるキッズコーナー